



日本百名山の花

白馬岳

ウルップソウ

深田久弥は日本百名山の白馬岳の書出しでこう記している。「日本アルプスへの初見参りが白馬岳であった人は少なくないだろう。」と。かくいう私もその一人。学生時代の夏休み、友人二人と登った。猿倉から林道を進むと、眼前に巨大な雪山が忽然と聳え立つ。今から登ろうとする山が、福井県で常に登っていた標高千数百mの山々と、明らかに次元が違う事を悟らされる。そして、その見事な山に今から登る事に興奮すら覚えた記憶がある。

その十年後、有名な大雪渓を通勤でもするかのように登る事になろうとは、この時、想像だにできなかった。「花の山岳写真」を撮影する目的であった。「花の山岳写真」は、手前の花をクローズアップで捉え、背景に山岳風景を明瞭に写し出した一群の作品をいう。背景には岩山が似合うので、北アルプスでの取材が多くなったので

ある。そして、白馬岳で最も印象に残る花の作品が、このウルップソウと杓子岳のモルゲンルートである。

ウルップソウは極地植物で、北アルプスでは白馬岳とその周辺に疎らに咲く。一見ヨーロッパ原産の植物のようで、植生が多い村営宿舍周辺では、花壇に咲いている雰囲気。立入りが制限されているので、間近ではなかなか見られない。たまたまロープの際に咲いているものを発見。この場所から背景に杓子岳がよく見えた。この日は構図を決め、翌日の早朝に懸けたのである。

そして翌日、暗闇の中で懐中電灯で照らしながら、大形カメラで構図とピントを合わせる至難な作業が続いた。そして、太陽が昇った瞬間モルゲンルートが出現。撮影できたのはたった二枚。三枚目をセットした時には、赤さが消えていた。



白馬岳のウルップソウ